



全国一般評議会

闘争情報

231
2012.5.1

東京都千代田区六番町 1
TEL 03-3263-0441
FAX03-5210-7422-5

企業の組織再編リストラ(会社分割)に反対し、 長野県・松本市内で抗議集会とデモ -全国一般長野地方労組アルピコ自校分会闘争-

会社への抗議と組合の団結を固める集会

4月29日に長野県・松本市のJR松本駅前記念公園において、全国一般長野地方労組アルピコ自動車学校4校の企業の組織再編リストラ(会社分割)に反対し、抗議集会を開催。長野地方労組とアルピコ自校分会を支援するために、自治労全国一般評議会と全国一般自教労協、全国一般北信越ブロックから石川地方労組と富山地方労組、地元自治労長野県本部から中村委員長を先頭に県本部の単組・組合員、永田自治労県本部顧問弁護士、社民党中川県連幹事長(県議員)など総勢150人以上が結集した。



【会社前の公園で抗議集会し、団結を固め合う】

集会会場となった公園は、アルピコ自動車学校を運営する東洋観光事業(株)のある「ホテルブエナビスタ」に隣接していることから、会社に対して怒りの抗議、訴えを行った。

集会は、はじめに支援共闘会議の3人の代表委員からのあいさつ、連帯あいさつと続き、その後、経過報告とアルピコ自校分会の久保田分会長からの力強い決意表明がされ、最後に支援共闘会議の代表委員の一人である自治労長野県本部中村委員長から団結ガンバロ-三唱で集会は締めくくられた。

松本市内の繁華街に出て会社の不条理と事業譲渡、会社分割反対を訴えデモ行進

集会後は、参加者全員で松本市内の中心街に出て「アルピコは社会的責任を果たせ!」「アルピコは地域の信頼を裏切るな!」との声をあげ、シュプレヒコールをしながらデモ行進を行った。

なお、全国一般長野地方労組アルピコ自動車学校における事業譲渡反対のたたかいは、これまで2月に「全国一般長野地方労組・アルピコ自動車学校分会闘争支援共闘会議」を

結成し、団体交渉を精力的に行うとともに、35,000筆を越える事業譲渡反対の署名を集約し、それを東洋観光事業（株）とそのオーナーであるアルピコホールディングスに提出。また、不条理な事業譲渡に反対し、チラシを作成し、駅頭をはじめとした街宣活動を展開し、世論への訴えも行ってきた。

4月26日、労働組合と会社との団体交渉の場において、労働組合が事業譲渡反対を行うなかで、これまでの事業譲渡から今度は従業員の同意を必要としない会社分割を会社は新たに提案。5月1日付で問題のある企業との間で契約を締結し、本年7月に新会社に会社分割継承させる旨を通告してきた。

アルピコ自動車学校に働く仲間は、これまで何年もの間、賃上げや一時金を我慢しながら、アルピコ自動車学校の黒字経営を維持し事業再生に貢献してきた。にもかかわらず、グループ全体が赤字だからとの一言で、労働組合との誠意ある交渉もされないままに一方的なリストラを押しつけ、しかも悪名高き企業への売却は絶対に許すことはできない。



【若者、女性、子どもたち、たくさんの方がデモに参加】

特に事業譲渡先としてあげられている岡山の悪名高きS社は、手段を選ばず労働者を簡単に使い捨てにし、権利としてある労働組合をつぶし、教習業務も劣悪で営業停止処分を何度も受けている問題の多い会社である。

この間の、痛ましい、悲惨な交通事故が相次ぐ中で、公共性が高く、安心・安全な教習生・ドライバーを育てていく、自動車教習所の指導員の役割はますます大きなものとなっている。



【シュプレヒコールをあげながら、市内をデモ行進】

こうしたことから、あらためて社会的な経営責任をかなぐり捨て、企業利益のみを追求したアルピコホールディングスと東洋観光事業（株）に対し、不条理な事業譲渡や会社分割を撤回すること、それができなくば少なくとも、悪名高き岡山のS社ではなく、県内の優良企業への売却とするよう求めていく。そのために、支援共闘会議として、さらなる運動を強化していくことを確認し、抗議行動とデモ行進を終了した。